

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年4月1日
(第41期) 至 平成25年3月31日

曾田香料株式会社

東京都中央区日本橋本町四丁目15番9号

(E01043)

目次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	6
第2 事業の状況	7
1. 業績等の概要	7
2. 生産、受注及び販売の状況	8
3. 対処すべき課題	9
4. 事業等のリスク	9
5. 経営上の重要な契約等	9
6. 研究開発活動	10
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	11
第3 設備の状況	12
1. 設備投資等の概要	12
2. 主要な設備の状況	12
3. 設備の新設、除却等の計画	13
第4 提出会社の状況	14
1. 株式等の状況	14
2. 自己株式の取得等の状況	17
3. 配当政策	17
4. 株価の推移	18
5. 役員の状況	19
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	21
第5 経理の状況	28
1. 連結財務諸表等	29
2. 財務諸表等	60
第6 提出会社の株式事務の概要	83
第7 提出会社の参考情報	84
1. 提出会社の親会社等の情報	84
2. その他の参考情報	84
第二部 提出会社の保証会社等の情報	85

[監査報告書]

[内部統制報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【事業年度】	第41期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	曾田香料株式会社
【英訳名】	Soda Aromatic Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澤田 定秀
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町四丁目15番9号 （同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋堀留町二丁目2番1号(本社事務所)
【電話番号】	03（5645）7340
【事務連絡者氏名】	取締役管理部門長 亀井 暢之
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月
売上高 (百万円)	18,517	16,117	16,833	15,867	14,534
経常利益 (百万円)	2,085	1,021	1,523	1,389	1,067
当期純利益 (百万円)	1,253	565	926	693	614
包括利益 (百万円)	—	—	878	728	853
純資産額 (百万円)	11,626	12,296	13,035	13,614	14,567
総資産額 (百万円)	18,336	18,286	18,856	19,156	19,696
1株当たり純資産額 (円)	1,150.66	1,209.60	1,281.25	1,336.40	1,398.47
1株当たり当期純利益金額 (円)	125.39	56.54	92.66	69.40	61.47
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	62.7	66.1	67.9	69.7	71.0
自己資本利益率 (%)	11.3	4.8	7.4	5.3	4.5
株価収益率 (倍)	6.5	10.3	7.3	10.0	11.2
営業活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	1,027	2,264	2,219	905	1,785
投資活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△740	△771	△393	△329	△450
財務活動によるキャッシュ・ フロー (百万円)	△500	△650	△439	△287	60
現金及び現金同等物の期末残 高 (百万円)	2,720	3,604	4,956	5,242	6,689
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	367 (39)	412	403	414 (46)	415 (41)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第38期、第39期の従業員数については臨時雇用者数の重要性が低かったため、年間平均臨時雇用者数を記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (百万円)	18,254	14,756	15,322	14,364	13,080
経常利益 (百万円)	2,053	782	1,267	1,139	899
当期純利益 (百万円)	1,289	492	830	640	531
資本金 (百万円)	1,490	1,490	1,490	1,490	1,490
発行済株式総数 (千株)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
純資産額 (百万円)	11,076	11,492	12,150	12,666	13,118
総資産額 (百万円)	17,523	17,069	17,531	17,734	17,871
1株当たり純資産額 (円)	1,108.01	1,149.68	1,215.46	1,267.13	1,312.29
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間配当額) (円)	18.00 (10.00)	12.00 (6.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)	14.00 (7.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	129.03	49.23	83.07	64.12	53.18
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	63.2	67.3	69.3	71.4	73.4
自己資本利益率 (%)	12.2	4.4	7.0	5.2	4.1
株価収益率 (倍)	6.4	11.9	8.2	10.8	13.0
配当性向 (%)	14.0	24.4	16.9	21.8	26.3
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	290	289	290 (33)	292 (41)	288 (35)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第37期、第38期の従業員数については臨時雇用者数の重要性が低かったため、年間平均臨時雇用者数を記載しておりません。

2 【沿革】

当社の創業は、大正4年4月に曾田政治が、東京市日本橋区（現東京都中央区）に香料商を開業したのが始まりであります。その後、昭和16年9月に当社の前身である旧曾田香料株式会社が東京市日本橋区に設立されました。

年月	事項
昭和47年9月	香料の製造、販売を目的として、東京都中央区日本橋本町四丁目14番地4号にエム、エス香料株式会社（資本金2億円）を設立し、旧曾田香料株式会社の営業部門を引き継ぐ
昭和47年10月	エム、エス香料株式会社を曾田香料株式会社と商号変更し、東レ株式会社・三井物産株式会社とジョイントベンチャー方式により提携
昭和49年8月	羽田工場（東京都大田区）より合成香料の製造を野田工場（千葉県野田市）に移転し、羽田工場を閉鎖
昭和49年11月	野田工場内に事務棟・研究棟を新設し、中央研究所を移転
昭和49年12月	千葉県野田市に野田支社を開設し、野田工場・中央研究所を統括
昭和51年7月	東京都中央区日本橋本町4丁目12番地に子会社株式会社箕輪香料〔現株式会社ソダアクト（現・連結子会社）〕を設立
昭和54年10月	岡山工場を岡山事業所に呼称変更
昭和59年9月	台湾において遠東香料（股）及び台湾曾田香料（股）の株式50%を取得
昭和60年2月	東京都中央区日本橋本町4丁目12番地に岡山化学工業株式会社（現・連結子会社）を設立
昭和62年6月	株式会社箕輪香料を株式会社ソダアクトに商号変更し、東京都千代田区岩本町2丁目8番9号に移転
平成元年7月	大阪営業所を大阪支店に昇格
平成2年9月	大阪市中央区南船場1丁目8番9号に子会社株式会社ソダコスモ（資本金1,000万円）を設立
平成4年1月	福島県郡山市片平町に郡山工場を開設し、由比工場（静岡県庵原郡由比町）より食品香料の製造を移転し、由比工場を閉鎖
平成6年10月	岡山事業所を廃止、着臭剤等の製造を岡山化学工業株式会社岡山工場に委託
平成9年7月	日本証券業協会に株式を店頭登録
平成10年10月	株式会社ソダアクトと株式会社ソダコスモを合併、存続会社を株式会社ソダアクト（資本金2,000万円）とする。
平成11年3月	東レ株式会社の当社株式保有割合が50.01%となり、当社は同社の子会社となる。
平成11年12月	連結子会社ソダアクトは、東京都中央区日本橋小伝馬町6番10号に移転
平成16年6月	三井物産株式会社の当社株式保有割合が15%となり、当社は同社の関連会社となる。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成20年10月	株式の追加取得により、台湾曾田香料（股）は連結子会社となる。
平成21年4月	曾田香料（昆山）有限公司を連結の範囲に含める。
平成25年3月	曾田香料（昆山）有限公司は新工場設立のための増資により、資本金が8百万RMBから73百万RMBとなる。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社（曾田香料株式会社）及び親会社（東レ株式会社）、子会社6社、その他の関係会社1社により構成されており、調合香料及び合成香料・ケミカル製品の製造並びに販売を主な事業内容としております。当社グループの主な事業内容及び事業系統図は以下のとおりであります。

(1) 調合香料事業

化粧品、シャンプー等に用いられるフレグランス、飲料・菓子等に用いられるフレーバーの製造・販売を当社が行っております。

(2) 合成香料・ケミカル事業

合成香料、ケミカル製品の製造・販売を当社が行うほか、子会社の岡山化学工業㈱が当社からの受託製造を行っております。

(3) 海外事業

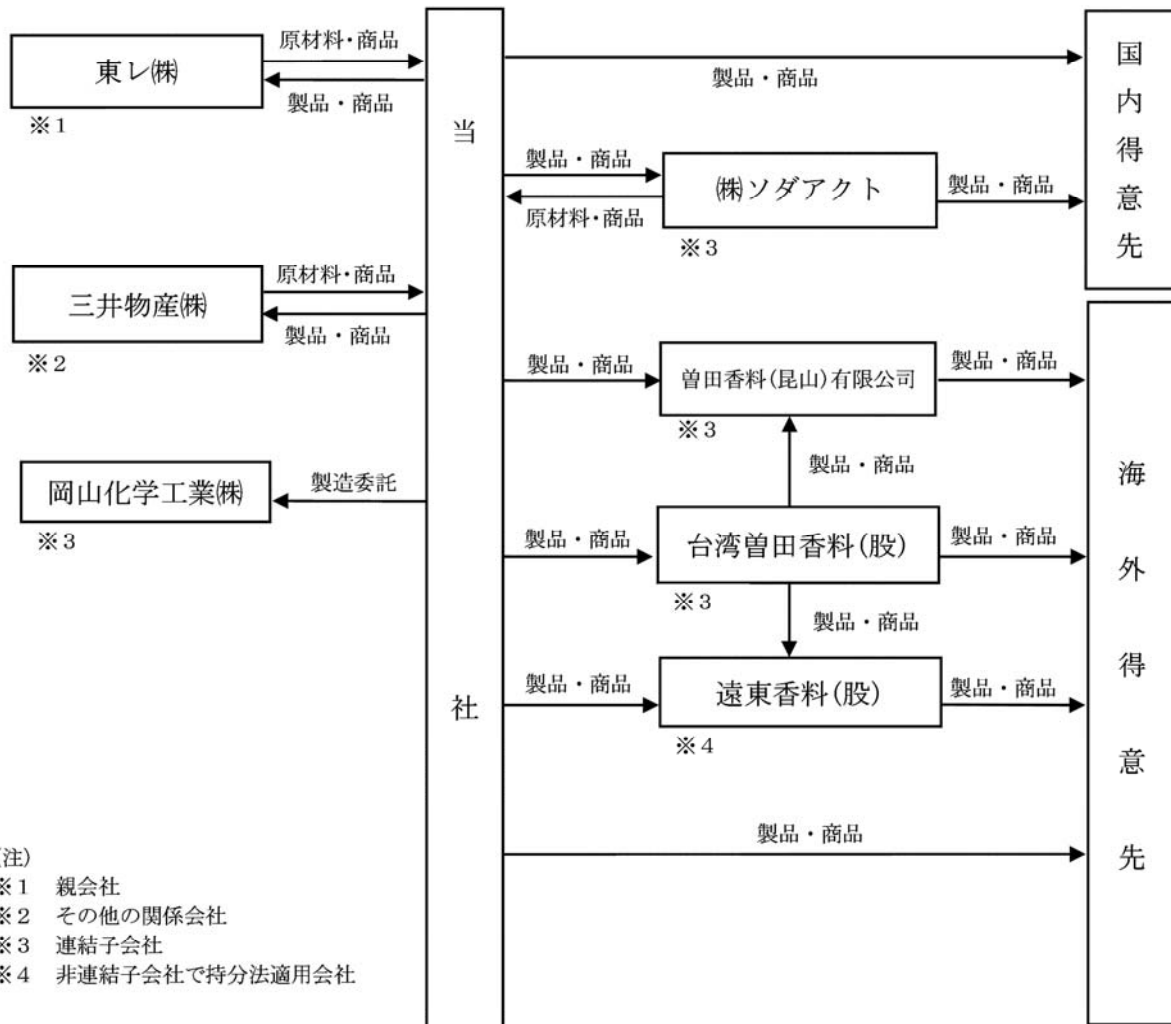
アジア地域において、各種香料の製造・販売を子会社の台湾曾田香料股份有限公司、曾田香料（昆山）有限公司が行っており、他1社は各種香料の販売を行っております。

(4) その他

主に当社が製造した各種香料の国内向け販売を子会社の㈱ソダアクトが行っております。

事業系統図

以上の事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



(注)

※1 親会社

※2 その他の関係会社

※3 連結子会社

※4 非連結子会社で持分法適用会社

4 【関係会社の状況】

(1) 親会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の被 所有割合 (%)	関係内容
東レ株式会社 (注)	東京都 中央区	147,873	繊維、プラスチック・ケミカル、情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料、その他の製造及び販売	被所有 50.03	当社は製品・商品を販売し、同社より原材料・商品を仕入れている。 役員の兼任…有

(注) 有価証券報告書を提出しております。

(2) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所 有割合 (%)	関係内容
岡山化学工業株式会社	東京都 中央区	10 百万円	各種香料等の受託製造	100	当社製品の製造。なお当社所有の建物及び設備を賃借している。 役員の兼任…有
株式会社ソダアクト	東京都 中央区	20 百万円	各種香料の販売	100	当社は製品・商品を販売し、同社より原材料・商品を仕入れている。 役員の兼任…有
台湾曾田香料股份有限公司	中華民国 台北市	50 百万NT\$	各種香料の製造及び販売	66.03	当社は製品・商品を販売している。 役員の兼任…有
曾田香料(昆山)有限公司 (注) 2	中国江蘇 省昆山市	73 百万RMB	各種香料の製造及び販売	69.43 (13.19)	当社は製品・商品を販売している。 役員の兼任…有
その他1社					

(注) 1. 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。

2. 特定子会社に該当しております。

(3) その他の関係会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の被 所有割合 (%)	関係内容
三井物産株式会社 (注)	東京都千代田区	341,481	総合商社	被所有 15.00	当社は製品・商品を販売し、同社より原材料・商品を仕入れている。 役員の兼任…無

(注) 有価証券報告書を提出しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
調合香料事業	179 (20)
合成香料・ケミカル事業	105 (3)
海外事業	75 —
報告セグメント計	359 (23)
その他	5 (5)
全社 (共通)	51 (13)
合計	415 (41)

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時従業員数（パートタイマー、嘱託契約、顧問契約の従業員を含み、派遣社員は除く。）は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、主に管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢 (才)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (円)
288 (35)	40.1	15.7	6,909,324

セグメントの名称	従業員数 (人)
調合香料事業	179 (20)
合成香料・ケミカル事業	58 (2)
報告セグメント計	237 (22)
全社 (共通)	51 (13)
合計	288 (35)

(注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時従業員数（パートタイマー、嘱託契約、顧問契約の従業員を含み、派遣社員は除く。）は、年間の平均人員を（ ）外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、主に管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社には、U Aゼンセン曾田香料労働組合（組合員数206人）があり、U Aゼンセンに加盟しております。なお、労使関係は円滑な関係にあり、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、復興需要が下支えとなり緩やかな回復を続けてきました。しかしながら、欧州、中国等海外経済の減速により輸出と生産活動は低迷し、個人消費も弱含みに推移しました。足元では、新政権の経済対策への期待感から市場は円安・株高の方向にありますが、実体経済はまだ顕著な回復には至っておらず、欧州経済の動向や日中関係の悪化の影響等の懸念材料もあり、経済の先行きは依然不透明な状況であります。

香料ユーザーの製品市場においては、消費者の低価格志向を背景とした製品価格の低下や主要購買層である若年層の減少等もあり、消費は停滞しており、国内香料市場も厳しい状況にあります。

このような状況下、当社グループは収益改善に努め、生産・販売・研究・開発が一体となって、製品開発における顧客ニーズへの対応力を強化してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高につきましては、海外経済の減速等の影響により合成香料・ケミカル事業と海外事業の売上高が前年と比較して大幅に減収となり、調合香料事業も減収となったことにより、売上高は前連結会計年度比 8.4%減少して 14,534百万円となりました。

利益につきましては、前述しました売上高の減少に伴う利益減により、営業利益は1,076百万円（前連結会計年度比 22.6%減）、経常利益は1,067百万円（同 23.2%減）となり、当期純利益は、前年には法定実効税率の変更による税金費用の増加があったため、前年と比較すると税負担が軽減し、前連結会計年度比11.4%減の614百万円となりました。

主要なセグメントの売上高につきましては、国内事業のうち、調合香料事業の売上高については、フレーバーの売上高は前年比微増となりましたが、フレグランスの売上高が、一部ユーザーの生産調整等により減収となったため、調合香料事業全体では前期比2.0%減の7,714百万円となりました。合成香料・ケミカル事業は、輸出が中心である合成香料の売上高が、中国・欧州市場の景気悪化による需要低迷や競争激化等の影響により前期比大幅に減少し、ケミカル製品も前期比大幅減収となったため、前期比19.0%減の4,201百万円となりました。また、海外事業は主力の中国市場の低迷により前期比8.7%減の1,386百万円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、1,446百万円増加し、6,689百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は 1,785百万円（前連結会計年度比 880百万円の増加）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が1,021百万円、減価償却費が510百万円、売上債権の減少額が402百万円、たな卸資産の減少額が392百万円及び法人税等の支払額が404百万円となったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は 450百万円（同 120百万円の支出増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出（450百万円）によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は 60百万円（同 347百万円の支出減）となりました。これは主に子会社曾田香料（昆山）有限公司の増資に伴う少数株主からの払込みによる収入（249百万円）と配当金の支払い（139百万円）によるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
調合香料事業 (百万円)	6,047	93.6
合成香料・ケミカル事業 (百万円)	3,730	81.8
海外事業 (百万円)	1,229	86.7
報告セグメント計 (百万円)	11,006	88.5
その他 (百万円)	—	—
合計 (百万円)	11,006	88.5

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 連結会社間の取引が複雑で、生産高を正確に把握することは困難なため、概算値で表示しております。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
調合香料事業	7,705	97.1	303	97.2
合成香料・ケミカル事業	4,212	81.2	104	111.3
海外事業	1,383	93.5	34	90.5
報告セグメント計	13,301	91.1	441	99.6
その他	1,225	96.3	42	88.4
合計	14,526	91.5	483	98.5

(注) 金額は販売価格で表示しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比 (%)
調合香料事業 (百万円)	7,714	98.0
合成香料・ケミカル事業 (百万円)	4,201	81.0
海外事業 (百万円)	1,386	91.3
報告セグメント計 (百万円)	13,303	91.3
その他 (百万円)	1,231	95.5
合計 (百万円)	14,534	91.6

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

香料業界は、国内では少子高齢化が進行する中で、ユーザーの最終製品市場（化粧品・食品）の成熟化もあり、今後はトータル需要の減少が予想され、厳しい経営環境が続くものと思われます。他方、消費者の食に対する安全・健康志向が高まり、高品質・高機能製品への欲求が強まっており、新製品開発力が強く求められています。

このような環境下、当社グループは国内のシェアアップを図るため、高付加価値調合香料や機能性香料素材の開発に取り組み、顧客ニーズに対応した魅力ある新製品のスピーディーな開発と提案に努め、販売を加速してまいります。また合成香料・ケミカル製品については、高付加価値製品の開発と更なるコストダウンによる国際競争力の強化に努め、販売・生産量の確保を図ってまいります。

生産では安全・防災・環境保全に努めるとともに、比例費、製造固定費、営業固定費のすべての領域に亘って費用削減を進め、トータルコスト競争力を強化してまいります。そしてキャッシュ・フロー経営を強化するため、設備投資については適正規模を十分に考慮した効率的な設備投資を実施します。また、在庫管理を強化し、在庫水準の改善を図ってまいります。

品質管理では、消費者・顧客に対してより安全・安心な製品を提供するため、品質保証部を中心とした全社一元的な品質保証体制で臨んでおり、その強化と運営の徹底を図ります。そして、製品の安全確保と製造現場での環境整備にも徹底的に取り組んでまいります。

海外展開では、中国の「曾田香料（昆山）有限公司」を拠点に、現地での生産・販売体制を強化し、急速に需要が拡大している中国市場での事業拡大を推進するとともに、今後の発展が期待される東南アジア市場の開拓に注力してまいります。

また、これらの成長戦略と事業構造改革を強力に推進するため、人材の育成と社員の意識改革を更に推し進め、創造力あふれる組織風土の醸成と組織の活性化に取り組んでまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの業績及び財政状態に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に充分努める所存であります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

- ① 当社グループの主力製品であるフレーバーについては、需要期の夏場などに天候不順（冷夏等）が生じることがあります。この場合、売上高及び収益等に影響を受ける場合があります。
- ② 当社グループは、生産活動の中断により生じる被害を最小限に抑えるため、製造設備に対し定期的な防災点検や安全のための設備投資を行っています。しかしながら、突発的に発生する災害や地震等の天災、不慮の事故等の影響で、製造設備等が被害を被った場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。
- ③ 当社グループは積極的に海外展開を進めているため、為替相場の変動によっては、海外売上高及び収益等に影響を受ける場合があります。
- ④ 当社グループはグローバルな営業活動を展開しており、特に東アジア市場に注力しております。今後特定国の経済情勢や政治的な変動、法律・規制の変更等により、当社グループの業績に影響を受ける場合があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、益々多様化する消費者ニーズ・ユーザーニーズに的確・迅速に対応するため、研究開発体制を強化し、各種香料並びに関連製品の開発と提供を行っております。

新製品の開発や得意先の依頼に対しては、研究開発部門と事業部門のフレグランス開発部、フレーバー開発部とが一体となり対応し、最終消費者に満足いただける製品の提供を目指し、積極的に提案活動を行っております。

当連結会計年度における研究・開発関連部署の概要は、次の通りであります。なお、研究開発費の総額は、993百万円となっております。

(1) フレグランス開発部

当部は、化粧品、トイレタリー製品、ハウスホールド製品等に使用される各種フレグランス香料を開発しています。

当部では蓄積された素材基礎データと経験に基づいた調香技術・評価技術によって、品質の高いフレグランス香料の開発を行うと共に、最新の市場状況やトレンドの把握に努め、消費者ニーズにマッチした香料の研究開発を行っています。また大学などの外部研究機関とも積極的に連携することで、香料の新たな機能性の追求や新規用途開発にも取り組んでいます。製品開発にあたっては香料の安全性確保を最優先に、関連する法令や年々強化される各種安全性規制を遵守しています。

今後もより安全で、より魅力的なフレグランス香料の開発を推進してまいります。

(2) フレーバー開発部

当部は、飲料、乳製品、菓子、調味食品等に使用されるフレーバーを開発しております。

当部は、最終製品カテゴリー別の開発体制を採用しており、市場ニーズに対応したフレーバー調合技術の更なる向上、当社独自の評価技術の活用、新素材の活用及びアプリケーション技術の向上などこれまで培ってきた技術の応用・展開に努め、「香り」「風味」「コスト」を重視したフレーバーの開発を推進しております。特に、コーヒー、紅茶、果実飲料用香料については、安定性に優れ、より天然に近い「香り」を有した特徴あるフレーバーを開発しております。乳製品用香料については、自社開発した各種の乳素材を組み合わせることにより、自然な「香り」や「味」を有したフレーバーを開発しております。また、製品開発にあたっては「食の安全性」の確保を最優先としており、今後も「安全・安心」「健康」「おいしさ」を合わせ持った嗜好性の高いフレーバーの開発を推進してまいります。

(3) 研究開発部門

当部門は、合成香料・ケミカル製品に関する研究開発と調合香料用の新規素材の開発を行っております。

① 合成香料・ケミカル製品に関する研究

グローバル市場での競争激化に対応するため、各種ラクトンと大環状ムスクを中心としたコストダウンと高品質化のための研究に継続して取り組んでおります。この目的達成のため、ラクトンに関しては現行製法の工程毎の改良を行うとともに、新規製法の開発も進めております。大環状ムスクについては「安全性」「環境負荷」「香りの質」の3点に優れた新規化合物の製法確立に向けた研究を進めております。また、当社の調合香料に特徴ある香気を付与できる各種の新規合成香料の開発にも鋭意努めており、これらは各種のフレーバーやフレグランス香料の調合に活用されております。

一方、合成香料で培ったコア技術を応用し、各種の高機能ケミカル製品の効率的製造法の確立に向けた研究も精力的に進めております。

② 香料素材開発に関する研究

多様化、高度化する消費者並びに顧客ニーズに対応すべく、天然物から有効な調合香料用素材や機能性素材を取り出すための新しい加工技術の開発を行っております。これらの技術を活用して得られた素材は高力価で安定性に優れ、当社の調合香料への特徴付与に大きな役割を果たしております。一方、畜産物、水産物、果実、花などの天然物や、コーヒー、紅茶等に代表される嗜好食品などに微量に存在する特徴香気成分を当社独自の香気分析技術により解明し、それらの知見を生かして高力価でナチュラル感に富む香料素材を開発しております。以上に加え、新規の物理的ないし物理化学的手法による香粧品、食品及び各種エキス等からの有効成分の分離・抽出技術の研究にも注力しております。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態および経営成績の分析は、以下のとおりであります。

(1) 財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末の資産の残高は、前連結会計年度末と比較して540百万円増加し、19,696百万円となりました。主な内容は、現金及び預金の増加1,446百万円、受取手形及び売掛金の減少347百万円、たな卸資産の減少358百万円、固定資産の減少153百万円であります。

(負債)

当連結会計年度末における負債の残高は、前連結会計年度末と比較して413百万円減少し、5,129百万円となりました。主な内容は、支払手形及び買掛金の減少118百万円、短期借入金の減少42百万円、未払法人税等の減少59百万円及び退職給付引当金等の固定負債の減少167百万円であります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比較して953百万円増加し、14,567百万円となりました。主な内容は、利益剰余金の増加474百万円、少数株主持分の増加333百万円であります。

(2) キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

(3) 経営成績の分析

① 売上高

「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」をご参照ください。

② 売上原価、販売費及び一般管理費、及び営業利益

売上原価は、前連結会計年度から 974百万円減少し、9,732百万円となりました。売上原価率は前期より0.5%下がり、67.0%となりました。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べ 44百万円減少し、3,725百万円となりました。

これらの結果、営業利益は前連結会計年度に比べ 313百万円減少し、1,076百万円（前連結会計年度比 22.6%減）となりました。

③ 営業外損益及び経常利益

営業外収益は、前連結会計年度に比べ17百万円減少し、46百万円となりました。

営業外費用は、前連結会計年度に比べ 9百万円減少し、55百万円となりました。

これらの結果、経常利益は前連結会計年度に比べ 321百万円減少し、1,067百万円（同 23.2%減）となりました。

④ 特別損益

特別利益は、固定資産売却益を計上し、5百万円となりました。

特別損失は、固定資産除却損等を計上し 51百万円となりました。

⑤ 当期純利益

当期純利益は、法定実行税率の変更による税金費用の増加があった前連結会計年度に比べ税負担が軽減しましたが、前連結会計年度に比べ79百万円減少し、614百万円（同 11.4%減）となりました。これにより当連結会計年度の1株当たり当期純利益は、61円47銭となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは工場設備の維持・改善を中心に無形固定資産への投資を含め、総額431百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
野田支社 (千葉県野田市)	調合香料事業 合成香料・ケ ミカル事業	各種香料・ケミ カル製品製造設備 技術開発設備 研究開発設備	450	385	779 (44,083)	—	124	1,740	100
郡山工場 (福島県郡山市)	調合香料事業	各種香料製造設備	494	151	729 (66,354)	—	28	1,403	48
貸与資産 (岡山県岡山市)	合成香料・ ケミカル事業	各種香料・ケミ カル製品製造設備	289	246	50 (108,128)	—	15	600	—
本社 (東京都中央区)	全社資産	統括管理用設備 販売業務用設備 開発用調合設備	56	0	—	—	50	107	131

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含まれておりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 貸与資産は、連結子会社（岡山化学工業株）に対するものであります。

(2) 国内子会社

国内子会社の設備の状況については、重要性がないため記載を省略しております。

(3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
台湾曾田香料股 份有限公司	本社 (中華民国台北 市) 他	海外事業	各種香料 製造設備 等	6	2	82 (13,521)	—	2	93	19
曾田香料(昆 山)有限公司	本社工場 (中国江蘇省昆 山市)	海外事業	各種香料 製造設備 等	14	19	—	—	29	63	56

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含まれておりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの当連結会計年度後1年間の主要な設備投資計画（新設・拡充）は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	主なセグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着工年月	完成予定 年月
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
提出会社	野田工場 (千葉県野田市)	調合香料事業及び 合成香料・ケミカ ル事業	各種香料・ケミカ ル製品製造設備	470	—	自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
	郡山工場 (福島県郡山市)	調合香料事業	各種香料製造設備	100	—	自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
	貸与資産 (岡山県岡山市)	合成香料・ケミカ ル事業	各種香料・ケミカ ル製品製造設備	90	—	自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
	その他	全社資産	ソフトウェア等	350	—	自己資金	平成25年 4月	平成26年 3月
曾田香料（昆 山）有限公司	本社工場 (中国江蘇省昆 山市)	海外事業	各種香料製造設備	1,800	238	自己資金及 び増資資金	平成25年 7月	平成26年 上期

(注) 貸与資産は、連結子会社（岡山化学工業株）に対するものであります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	34,400,000
計	34,400,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数（株） （平成25年3月31日）	提出日現在発行数（株） （平成25年6月26日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	大阪証券取引所 JASDAQ （スタンダード）	単元株式数 100株
計	10,000,000	10,000,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 （千株）	発行済株式総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増減額 （百万円）	資本準備金残高 （百万円）
平成9年7月24日 （注）	1,400	10,000	578	1,490	675	1,456

（注） 有償・一般募集

入札による募集	700,000株
発行価格	825円
資本組入額	413円
払込金総額	637百万円
入札によらない募集	700,000株
発行価格	880円
資本組入額	413円
払込金総額	616百万円

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	5	10	23	10	—	515	563	—
所有株式数（単元）	—	1,611	1,107	67,439	6,621	—	23,217	99,995	500
所有株式数の割合（%）	—	1.61	1.11	67.44	6.62	—	23.22	100	—

（注）自己株式3,582株は、「個人その他」に35単元及び「単元未満株式の状況」に82株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
東レ株式会社	東京都中央区日本橋室町2-1-1	5,001	50.01
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1-2-1	1,500	15.00
ノムラピービーノミニーズ ティーケーワンリミテッド （常任代理人 野村証券株式会社）	1 ANGEL LANE LONDON EC4R 3AB, U. K （東京都中央区日本橋1-9-1）	397	3.97
曾田 義信	東京都大田区	364	3.64
曾田香料従業員持株会	東京都中央区日本橋堀留町2-2-1	346	3.46
谷本 正敏	東京都中野区	210	2.10
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1-5-1	104	1.04
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1-2-1	100	1.00
仙波糖化工業株式会社	栃木県真岡市並木町2-1-10	95	0.95
ドイチェ バンク アーゲー ロンドン ピービー ノントリティー クライアーツ 613 （常任代理人 ドイツ証券株式会社）	TAUNUSANLAGE 12, D-60325 FRANKFURT AM MAIN, FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY （東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー）	92	0.92
計	—	8,211	82.11

（注）タワー投資顧問株式会社から平成20年5月21日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成20年5月15日現在で502千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、タワー投資顧問株式会社の大量保有報告書の写しの内容は以下のとおりであります。

大量保有者	タワー投資顧問株式会社
住所	東京都港区芝大門1丁目2番18号 野依ビル2階
保有株券等の数	株式 502,000株
株券等保有割合	5.02%

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 3,500	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 9,996,000	99,960	—
単元未満株式	普通株式 500	—	—
発行済株式総数	10,000,000	—	—
総株主の議決権	—	99,960	—

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
曾田香料株式会社	東京都中央区日本橋本町 四丁目15番9号	3,500	—	3,500	0.03
計	—	3,500	—	3,500	0.03

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	3,582	—	3,582	—

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要課題と考えており、業績の動向、財務体質、配当性向等を勘案しつつ、株主の皆様のご期待に沿うべく安定的な配当を行うことを基本方針とし、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととしております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当金につきましては、上記方針に基づき当期は1株当たり14円の配当（うち中間配当7円）を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は26.3%となりました。

内部留保資金につきましては、事業構造の革新と事業拡大に取り組んでおり、今後の継続的な事業の成長・発展のために、有効活用してまいりたいと考えております。

なお当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月31日 取締役会決議	69	7
平成25年6月25日 定時株主総会決議	69	7

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第37期	第38期	第39期	第40期	第41期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	1,100	820	747	764	760
最低(円)	780	560	570	657	610

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所 J A S D A Q におけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	633	628	635	662	740	760
最低(円)	625	610	616	632	660	674

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		澤田 定秀	昭和28年3月4日生	昭和50年4月 東レ株式会社入社 平成11年6月 同社化成産品事業部長兼化成産品課長 平成13年6月 同社ケミカル事業本部主幹兼ケミカル事業部動物薬課長 平成15年4月 同社原料部長 平成20年6月 同社ケミカル事業部門長兼ケミカル事業部長 平成23年5月 同社樹脂・ケミカル事業本部担当 平成23年6月 当社常務取締役 平成25年6月 当社代表取締役社長（現任）	(注) 3	5
常務取締役	総務部門長 人事部門長 フレグランス事業部門長	片岡 正行	昭和23年12月12日生	昭和42年4月 旧曾田香料株式会社入社 昭和47年9月 当社入社 平成17年4月 当社参与フレグランス事業部長 平成17年6月 当社参与フレグランス事業部門長 平成18年6月 当社取締役 平成23年6月 当社常務取締役（現任）	(注) 3	1
常務取締役	ケミカル事業部 門長 購買部門長	坂本 潔	昭和26年3月6日生	昭和50年4月 三井物産株式会社入社 平成11年4月 同社基礎化学品原料部次長 平成14年5月 同社石油化学品本部チーフコーディネーター 平成15年12月 同社メタノール・アンモニア部部長 平成19年1月 同社化学品第一本部業務部プロジェクトコーディネーター 平成21年4月 同社基礎化学品本部基礎化学品業務部プロジェクトコーディネーター 平成21年6月 当社取締役 平成25年6月 当社常務取締役（現任）	(注) 3	5
取締役	研究開発部門管掌 生産部門長 品質保証部担当 安全・環境管理室 担当	松野 健三	昭和26年7月11日生	昭和50年4月 東レ株式会社入社 平成11年4月 同社東海工場工務部長 平成14年12月 同社関連事業本部主幹 平成18年9月 同社経営企画室主幹 平成19年6月 同社CSR推進室長 平成24年4月 当社入社 平成24年6月 専任理事生産部門副部門長 当社取締役（現任）	(注) 3	2
取締役	管理部門長 監査部担当	亀井 暢之	昭和30年6月10日生	昭和54年4月 東レ株式会社入社 平成13年6月 同社ケミカル事業管理室長 平成15年11月 トーレ・インダストリーズ・アメリカ社取締役副社長兼東レ株式会社財務経理部門主幹（アメリカ地区経理チーフ） 平成18年1月 東レ株式会社医薬・医療事業管理室主幹 平成19年10月 同社医薬・医療事業管理室長 平成24年4月 同社医薬・医療事業企画管理部主幹 平成25年6月 当社取締役（現任）	(注) 3	—
取締役	フレーバー事業部 門長	堂前 明彦	昭和32年11月9日生	昭和55年4月 当社入社 平成18年1月 曾田香料（昆山）有限公司副総経理 平成21年6月 当社フレーバー販売1部長 平成23年4月 当社参与フレーバー販売1部長 平成23年5月 当社参与フレーバー事業部門副部門長 平成24年6月 当社常任理事フレーバー事業部門長 平成25年6月 当社取締役（現任）	(注) 3	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		栴田 章吾	昭和26年8月15日生	昭和50年4月 東レ株式会社入社 平成11年1月 ペンファブリック社取締役兼東レ株式会社財務経理部門主幹(マレーシア地区財經チーフ) 平成13年6月 東レ株式会社経理部長 平成18年6月 当社監査役 平成19年6月 東レ株式会社取締役 平成23年6月 同社常務取締役関連事業本部長(現任) 平成23年6月 当社取締役(現任)	(注) 3	—
常勤監査役		曾田 義信	昭和23年2月21日生	昭和63年4月 当社入社 平成3年6月 当社取締役 平成9年2月 株式会社ソダアクト代表取締役社長 平成13年6月 当社常勤監査役(現任)	(注) 5	364
監査役		小林 龍夫	昭和12年3月5日生	昭和35年4月 株式会社東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行 昭和63年6月 同社営業第2部長 平成2年7月 太陽生命保険相互会社(現太陽生命保険株式会社)常務取締役 平成6年6月 太陽生命投資顧問株式会社代表取締役社長 平成11年4月 東陽興産株式会社顧問 平成12年8月 特定非営利活動法人日本紛争予防センター事務局長 平成17年12月 株式会社医薬分子設計研究所常勤監査役 平成21年6月 当社監査役(現任)	(注) 4	—
監査役		真野 充治	昭和38年1月26日生	昭和60年4月 東レ株式会社入社 平成18年6月 トーレ・プラスチック(アメリカ)社財務・経理部門長 平成21年6月 東レ株式会社財務部長兼経営企画室主幹 平成25年6月 当社監査役(現任) 平成25年6月 東レ株式会社関連業務部長(現任)	(注) 4	—
				計		382

- (注) 1. 取締役栴田章吾は、社外取締役であります。
2. 監査役小林龍夫及び監査役真野充治は、社外監査役であります。
3. 平成25年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4. 平成25年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成24年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
永井 智	昭和33年6月4日生	昭和56年4月 東レ株式会社入社 平成16年4月 同社滋賀事業場環境保安課長 平成19年6月 同社関連事業本部主任部員兼環境保安部主任部員 当社補欠監査役(現任) 平成20年4月 東レ株式会社関連事業本部主幹兼環境保安部主幹(現任)	—

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

(a) 企業統治の体制の概要

当社の取締役会は取締役7名（うち、社外取締役1名）で構成しており、経営の最高意思決定機関として会社法等で定められた事項および経営に関する重要事項について決議・報告を行っております。経営会議は、常勤取締役および常勤監査役等で構成され、原則毎週開催されており、経営上重要な業務執行事項や諸課題を迅速に審議・報告し、社長および取締役会を補佐しております。この他、部門毎の部・課長を交えた業績報告会議も各部門で毎月開催しており、部門長と部・課長の意思の疎通と指示の浸透を図っております。

また、当社は監査役制度を採用しております。監査役会は3名で構成されており、常勤監査役1名、非常勤の社外監査役2名であります。監査役は、取締役会および経営会議への出席や重要書類の閲覧等を通して、取締役の職務遂行状況の適法性について監査しております。

なお、当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

(b) 企業統治の体制を採用する理由

上記体制は、当社の企業規模及び事業内容を踏まえ、客観性及び中立性を確保した経営監視機能を強化しつつ、経営の効率性と適法性を確保するために適した体制であると判断しております。

(c) リスク管理体制の整備の状況

当社は、法令遵守を徹底し、地域社会への貢献や環境問題への対応など、企業の社会的責任（CSR）の推進を企業経営の最優先課題として取り組んでおり、このためCSR委員会を設置し、全社的なCSR推進活動を行っております。

当社はコンプライアンス経営を強化するため、倫理委員会を設置しており、企業に課せられた社会的責任（CSR）の重要項目である企業倫理や法令遵守の徹底を図っております。

当社は、製品・商品の安全面への対処を徹底し、リスクの顕在化を未然に防止するため、製品等の安全性に関する重要事項を審議する製品・商品安全委員会を設置し、製品等に関わるリスク情報の収集と危機発生の予防・抑制に努めております。

(d) 内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役の職務執行の適法性と、当社業務の適正性を確保するために必要な体制整備のために、内部統制システムの基本方針を決定しております。その決定内容の概要と体制の整備・運用状況は以下のとおりです。

イ. 取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ・ 全社委員会のひとつとして「倫理委員会」、その下部機構として「全社法令遵守委員会」、そして各部門、支社、支店、工場毎の「法令遵守委員会」を設置し、企業倫理・法令遵守を推進しております。
- ・ 企業倫理・法令遵守を推進・徹底するため、遵守すべき具体的行動基準として「企業倫理・法令遵守行動規範」を制定しております。
- ・ 企業倫理・法令遵守に関するより詳細な留意事項などを説明した「企業倫理・法令遵守ガイドライン」を策定しております。
- ・ 法令・定款等に違反する行為を発見した場合の「内部通報体制」を構築しております。
- ・ 取締役および使用人に「企業倫理・法令遵守行動規範」「企業倫理・法令遵守ガイドライン」「内部通報体制」の周知徹底を図っております。
- ・ 法令遵守の最重要事項のひとつである安全保障貿易管理について、「安全保障貿易管理規程」を定めるとともに、担当組織により安全保障貿易管理を徹底しております。
- ・ 「企業倫理・法令遵守行動規範」において反社会的勢力との関係遮断を定め、全社一体の毅然とした対応を徹底しております。
- ・ 内部監査を担当する部署として「監査部」を設置し、「内部監査規程」に従って監査を実施しております。

ロ. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・ 意思決定の規程として「職務権限規程」を定め、取締役会、社長をはじめとする各職制の決裁権限を規定しております。
- ・ 効率的な職務執行のために、取締役会決議と社長決裁に向けての審議機関として「経営会議」を設置し、方針と実行の審議を行っております。
- ・ 経営執行の補完的役割を果たすものとして、重要経営テーマ毎に全社委員会を設置しております。
- ・ 取締役会は各取締役の業務担当を定め、各取締役は自らの担当組織の長を管理・監督しております。
- ・ 各組織の業務分掌を定めるものとして「業務分掌規程」を制定しております。

- ハ. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
- ・経営意思決定に係る議事録・財務情報等の重要文書・情報について、保存・管理の規程を定め、当該規程に従って保管し、必要に応じて閲覧可能な状態を維持しております。
 - ・秘密情報の保護については、管理責任者を明確にして管理を徹底するとともに、外部からの不正アクセス防止措置を講じております。
 - ・個人情報保護への対応として、「個人情報管理規程」を制定し、「個人情報の保護方針」「社内の情報管理体制」および「従業員の役割」を定めております。

ニ. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・「危機管理規程」を制定し、経営活動に潜在するリスクを特定し、平常時からリスクの低減および危機の未然防止に努めるとともに、重大な危機が発生した場合の即応体制を整備・維持しております。
- ・全社委員会のひとつであるCSR委員会の下部組織としてリスクマネジメント部会を組織し、平常時のリスク管理状況をフォローするとともに、全社的施策を企画・立案しております。
- ・全社的な危機が発生した場合は、「対策本部」を設置し対応することにしております。
- ・財務報告の信頼性を確保する観点から、財務報告に係る内部統制の整備・運用を推進しております。

ホ. 監査役への報告体制およびその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・取締役および使用人は、各監査役からの要請に応じ、職務執行に関する事項を報告しております。
- ・監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するために重要な会議に出席しております。
- ・監査役は、監査役会が定めた監査方針・監査計画に従い、全取締役との定期ミーティング、各部門、支社、支店、工場や国内外関係会社への定期監査を実施しております。
- ・監査役が監査を実施する際に要請がある場合は、監査部がこれに協力しております。

ヘ. 監査役を補助すべき使用人に関する事項および当該使用人の独立性に関する事項

- ・監査役からその職務を補助すべき使用人を置くことを求められた場合、監査役の職務を補助する組織を設置し、専任するスタッフを置くことしております。
- ・当該専任スタッフの取締役からの独立性を確保するために、監査役は上記スタッフの人事について必要に応じて協議を行い、変更を申し入れることができることしております。

ト. 曾田グループにおける業務の適正を確保するための体制

- ・曾田グループ各子会社においても、当社の「経営理念」「企業倫理・法令遵守行動規範」等に示される基本的な考え方を共有しております。
- ・曾田グループ各子会社について、重要案件に関する当社への報告および協議のルールを定め、グループ全体としてのリスク管理および効率性を追求しております。
- ・監査役および監査部は、定期監査・内部監査を実施し、曾田グループ各子会社の業務遂行の適法性・妥当性・効率性をチェックしております。

この他、各種規程類につきましては、関係法令等の変更に応じて適宜見直し・変更を行い、経営の意思決定に反映させるとともに、社員への周知徹底を図っております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

監査役は、会計監査人との連携を密にして、的確な監査を実施するよう努めております。監査役と会計監査人とは年4回定期的な会合を行ない、監査計画や監査体制を協議し、会計監査人から決算時での監査実施状況の報告を受けております。また、監査役は会計監査人が行なう各事業所・工場等での期中監査・実地棚卸にも同行し、現地にて監査実施報告を受けております。また、内部監査部署である監査部（1名）との連携については、監査部が実施した監査結果を文書で、代表取締役ならびに被監査部門長に報告するとともに監査役にも報告しております。監査役は、監査部との連携を密にして、業務執行状況の的確な監視を行っております。

なお、監査役真野充治氏は、東レ株式会社の財務部長を平成21年から4年間務め、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役である柿田章吾氏は、当社の親会社である東レ株式会社の常務取締役関連事業本部長であります。社外監査役である真野充治氏は、当社の親会社である東レ株式会社の関連業務部長であります。当社は東レ株式会社と仕入等の営業取引及び東レグループ内におけるCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）利用による資金の預入等があります。社外監査役である小林龍夫氏と当社との間に特別な利害関係はありません。

- ・社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能・役割

社外取締役及び社外監査役は、取締役会において経営体制の強化等の見地から意見を述べ、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保し、取締役の職務執行を監視する機能・役割を果たしております。

- ・社外取締役及び社外監査役の選任に関する考え方

当社は、経営活動における透明性の向上と、コンプライアンスおよび監視機能の強化を図るべく、社外取締役及び社外監査役の選任を行っております。

- ・社外取締役及び社外監査役による監督・監査と内部監査・監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、例外なく取締役会への招集を受け、重要な業務執行計画や内部統制システムの整備に関する基本方針などの取締役会での決議に際し、意見表明できる体制となっております。また、社外監査役は会計監査人と年4回定期的な会合を行い、監査計画や監査体制を協議し、会計監査の実施報告を受けております。

なお、社外取締役及び社外監査役の選任に当たり、当社で定めている独立性に関する基準等はありません。

④ 会計監査の状況

当社は、新日本有限責任監査法人を選任し、会社法監査及び金融商品取引法監査を受けているほか、期中監査も実施されております。なお、当期において監査業務を執行した公認会計士の氏名及び継続監査年数、監査業務に係る補助者の構成については下記のとおりであります。

- イ. 監査業務を執行した公認会計士の氏名及び当社に係る継続監査年数

指定有限責任社員 業務執行社員： 木村 聡 4年

指定有限責任社員 業務執行社員： 打越 隆 1年

- ロ. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 10名、会計士補等 5名、その他 10名

⑤ 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

⑥ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

⑦ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

- イ. 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにするためのものであります。

- ロ. 監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。これは、監査役が期待される役割を十分に発揮できるようにするためのものであります。

- ハ. 中間配当

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑧ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	136	106	5	23	8
監査役 (社外監査役を除く)	18	14	0	2	1
社外役員	1	1	—	0	1

(注) 1. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 昭和62年6月25日開催の第15回定時株主総会において、取締役の報酬限度額を年額250百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）、平成6年6月28日開催の第22回定時株主総会において、監査役の報酬限度額を年額40百万円以内と決議いただいております。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定は、役員の役職等を反映した内規に基づき、在任期間等を考慮して決定しております。

⑨ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
33銘柄 635百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ツムラ	38,752	92	取引関係の強化
(株)資生堂	61,143	87	〃
森永製菓(株)	245,641	47	〃
仙波糖化工業(株)	123,000	37	〃
雪印メグミルク(株)	23,141	35	〃
日本製粉(株)	84,808	32	〃
ライオン(株)	65,615	31	〃
コタ(株)	36,300	26	〃
キリンホールディングス(株)	20,000	21	〃
明治ホールディングス(株)	4,730	17	〃
森永乳業(株)	35,319	11	〃
理研ビタミン(株)	4,421	10	〃
味の素(株)	9,500	9	〃
日本アルコール販売(株)	171,195	8	〃
東京ガス(株)	20,245	7	〃
丸三証券(株)	20,000	7	〃
協同乳業(株)	20,000	6	〃
(株)みずほフィナンシャルグループ	39,522	5	〃
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,800	4	〃
コカ・コーラウエスト(株)	3,157	4	〃
大阪ガス(株)	11,025	3	〃
大興電子通信(株)	20,000	3	〃
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	13,389	3	〃
長谷川香料(株)	2,600	3	〃
第一生命保険(株)	25	2	〃
(株)不二家	10,000	1	〃
三和倉庫(株)	8,000	1	〃
森下仁丹(株)	3,960	1	〃
フジッコ(株)	1,200	1	〃
フタバ食品(株)	9,000	1	〃

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)ツムラ	39,225	136	取引関係の強化
(株)資生堂	64,444	85	〃
森永製菓(株)	265,787	54	〃
仙波糖化工業(株)	123,000	40	〃
日本製粉(株)	90,488	39	〃
雪印メグミルク(株)	24,160	36	〃
ライオン(株)	69,722	36	〃
コタ(株)	39,930	35	〃
キリンホールディングス(株)	20,000	30	〃
明治ホールディングス(株)	4,924	21	〃
丸三証券(株)	20,000	13	〃
味の素(株)	9,500	13	〃
理研ビタミン(株)	4,764	10	〃
東京ガス(株)	20,245	10	〃
森永乳業(株)	35,319	10	〃
日本アルコール販売(株)	171,195	8	〃
(株)みずほフィナンシャルグループ	39,522	7	〃
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,800	6	〃
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	13,389	5	〃
コカ・コーラウエスト(株)	3,157	5	〃
大阪ガス(株)	11,025	4	〃
長谷川香料(株)	2,600	3	〃
大興電子通信(株)	20,000	3	〃
第一生命保険(株)	25	3	〃
協同乳業(株)	20,000	2	〃
(株)不二家	10,000	2	〃
三和倉庫(株)	8,000	1	〃
森下仁丹(株)	3,960	1	〃
フジッコ(株)	1,200	1	〃
フタバ食品(株)	9,000	1	〃

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	36	—	34	—
連結子会社	—	—	—	—
計	36	—	34	—

② 【その他重要な報酬の内容】

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査日数、規模・業務の特性等を勘案し適切に決定しております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、適時適正な開示を実施できる体制を整備するため、公益法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修への参加等を行っております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,242	6,689
受取手形及び売掛金	※2 4,357	※2 4,009
商品及び製品	1,173	1,015
仕掛品	1,165	1,041
原材料及び貯蔵品	1,186	1,110
繰延税金資産	200	186
その他	124	92
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	13,445	14,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,827	4,857
減価償却累計額	△3,446	△3,542
建物及び構築物（純額）	1,380	1,315
機械装置及び運搬具	9,216	9,101
減価償却累計額	△8,235	△8,289
機械装置及び運搬具（純額）	981	812
土地	1,634	1,646
建設仮勘定	16	103
その他	1,468	1,524
減価償却累計額	△1,226	△1,274
その他（純額）	241	250
有形固定資産合計	4,254	4,127
無形固定資産	78	96
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 540	※1 648
繰延税金資産	600	512
その他	239	176
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	1,377	1,333
固定資産合計	5,710	5,556
資産合計	19,156	19,696

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 1,865	※2 1,746
短期借入金	362	320
未払法人税等	180	121
賞与引当金	350	358
役員賞与引当金	14	11
その他	690	660
流動負債合計	3,464	3,218
固定負債		
退職給付引当金	1,805	1,719
役員退職慰労引当金	158	134
その他	114	57
固定負債合計	2,078	1,910
負債合計	5,542	5,129
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,490	1,490
資本剰余金	1,456	1,456
利益剰余金	10,476	10,950
自己株式	△2	△2
株主資本合計	13,420	13,895
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85	145
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	△147	△61
その他の包括利益累計額合計	△61	84
少数株主持分	254	588
純資産合計	13,614	14,567
負債純資産合計	19,156	19,696

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	15,867	14,534
売上原価	10,707	9,732
売上総利益	5,160	4,801
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	226	215
役員報酬	178	166
給料及び手当	1,443	1,480
賞与引当金繰入額	222	224
役員賞与引当金繰入額	14	11
退職給付費用	169	133
役員退職慰労引当金繰入額	32	27
福利厚生費	340	347
賃借料	268	254
貸倒引当金繰入額	—	0
その他	874	865
販売費及び一般管理費合計	※1 3,770	※1 3,725
営業利益	1,390	1,076
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	13	14
為替差益	19	—
受取補償金	—	8
受取保険金	6	—
その他	14	13
営業外収益合計	64	46
営業外費用		
支払利息	2	1
為替差損	—	5
休止固定資産減価償却費	58	44
その他	3	2
営業外費用合計	64	55
経常利益	1,389	1,067
特別利益		
固定資産売却益	—	※2 5
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除却損	※3 17	※3 41
事務所移転費用	—	6
投資有価証券評価損	4	3
災害による損失	22	—
貸倒引当金繰入額	2	—
特別損失合計	46	51
税金等調整前当期純利益	1,342	1,021
法人税、住民税及び事業税	447	341
法人税等調整額	155	12
法人税等合計	603	353
少数株主損益調整前当期純利益	739	667
少数株主利益	45	53
当期純利益	693	614

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	739	667
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	60
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△25	124
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	※ △11	※ 186
包括利益	728	853
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	691	760
少数株主に係る包括利益	36	93

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,490	1,490
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,490	1,490
資本剰余金		
当期首残高	1,456	1,456
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,456	1,456
利益剰余金		
当期首残高	9,922	10,476
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	693	614
当期変動額合計	553	474
当期末残高	10,476	10,950
自己株式		
当期首残高	△2	△2
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△2	△2
株主資本合計		
当期首残高	12,867	13,420
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	693	614
当期変動額合計	553	474
当期末残高	13,420	13,895

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	70	85
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	60
当期変動額合計	15	60
当期末残高	85	145
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	△0
当期変動額合計	0	△0
当期末残高	0	0
為替換算調整勘定		
当期首残高	△129	△147
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△17	86
当期変動額合計	△17	86
当期末残高	△147	△61
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△59	△61
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2	146
当期変動額合計	△2	146
当期末残高	△61	84
少数株主持分		
当期首残高	227	254
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	333
当期変動額合計	27	333
当期末残高	254	588
純資産合計		
当期首残高	13,035	13,614
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	693	614
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24	479
当期変動額合計	578	953
当期末残高	13,614	14,567

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,342	1,021
減価償却費	560	510
のれん償却額	16	16
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	△0
受取利息及び受取配当金	△22	△24
支払利息	2	1
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	△5
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	3
固定資産除却損	6	37
移転費用	—	6
災害損失	22	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△243	402
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△76	392
仕入債務の増減額 (△は減少)	△17	△144
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△39	4
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	43	△110
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	2	△3
その他	9	64
小計	1,610	2,173
利息及び配当金の受取額	23	24
利息の支払額	△3	△2
移転費用の支払額	—	△6
災害損失の支払額	△53	—
法人税等の支払額	△671	△404
営業活動によるキャッシュ・フロー	905	1,785
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△238	△450
有形固定資産の売却による収入	—	5
投資有価証券の取得による支出	△15	△15
無形固定資産の取得による支出	△12	△47
その他	△62	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△329	△450
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	62	△43
長期借入金の返済による支出	△200	—
配当金の支払額	△139	△139
少数株主への配当金の支払額	△9	△5
少数株主からの払込みによる収入	—	249
財務活動によるキャッシュ・フロー	△287	60
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	50
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	286	1,446
現金及び現金同等物の期首残高	4,956	5,242
現金及び現金同等物の期末残高	* 5,242	* 6,689

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 5社

主要な連結子会社は、岡山化学工業株式会社、株式会社ソダアクト、台湾曾田香料股份有限公司、曾田香料（昆山）有限公司であります。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社は、遠東香料股份有限公司であります。

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数 1社

当該会社は、遠東香料股份有限公司であります。

(2) 持分法適用会社の決算日は連結決算日と異なるため、同社の事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち台湾曾田香料股份有限公司、曾田香料（昆山）有限公司、亞洲台曾香料私営有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産

製品、仕掛品、貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

原材料、商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また、在外連結子会社は定額法を採用しております。（ただし、当社及び国内連結子会社は平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法によっております。）なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8－50年

機械装置及び運搬具 4－8年

ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、ソフトウェア（自社利用分）については社内における利用可能期間（5年）による定額法。

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

ハ. 役員賞与引当金

当社及び国内連結子会社は役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

ニ. 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

ホ. 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は先物為替予約であり、ヘッジ対象は主として外貨建予定取引であります。

ハ. ヘッジ方針

主として、「社内規程」に従い、外貨建の売上及び仕入契約の為替変動リスクをヘッジしております。原則として、外貨建の売掛金・買掛金及び成約高の範囲で行うこととしております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が一致しているため有効性の評価を省略しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金からなります。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定式基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の年度末に係る連結財務諸表から適用します。ただし、退職給付見込額の期間帰属方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「退職給付に関する会計基準」等の適用により、当社グループの連結財務諸表に重要な影響を及ぼす見込みです。連結貸借対照表においては、主として数理計算上の差異を発生時に認識するため純資産が変動する見込みですが、影響額については現時点で評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	11百万円	13百万円

※2 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	59百万円	52百万円
支払手形	62	49

(連結損益計算書関係)

※1 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	970百万円	993百万円

※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	－百万円	5百万円
その他	－	0
計	－	5

※3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	0百万円	5百万円
機械装置及び運搬具	2	31
固定資産処分費用	10	3
その他	3	0
計	17	41

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	9百万円	93百万円
組替調整額	4	—
税効果調整前	14	93
税効果額	1	△33
その他有価証券評価差額金	15	60
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	1	0
組替調整額	△0	△1
税効果調整前	0	△0
税効果額	△0	0
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△25	124
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△0	1
その他の包括利益合計	△11	186

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数 (千株)	当連結会計年度増 加株式数 (千株)	当連結会計年度減 少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	10,000	—	—	10,000
合計	10,000	—	—	10,000
自己株式				
普通株式	3	—	—	3
合計	3	—	—	3

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	69	7	平成23年3月31日	平成23年6月24日
平成23年11月1日 取締役会	普通株式	69	7	平成23年9月30日	平成23年12月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	69	利益剰余金	7	平成24年3月31日	平成24年6月28日

当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数 (千株)	当連結会計年度増 加株式数 (千株)	当連結会計年度減 少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	10,000	—	—	10,000
合計	10,000	—	—	10,000
自己株式				
普通株式	3	—	—	3
合計	3	—	—	3

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	69	7	平成24年3月31日	平成24年6月28日
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	69	7	平成24年9月30日	平成24年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	69	利益剰余金	7	平成25年3月31日	平成25年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金勘定	5,242百万円	6,689百万円
現金及び現金同等物	5,242百万円	6,689百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

該当事項はありません。

(イ) 無形固定資産

該当事項はありません。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
その他	113	108	5
合計	113	108	5

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
その他	43	43	—
合計	43	43	—

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	5	—
1年超	—	—
合計	5	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	17	5
減価償却費相当額	17	5

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	35	61
1年超	61	—
合計	97	61

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行等金融機関からの借入による方針です。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクについては、与信管理等を定めた社内規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行っております。また、海外と取引を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、株式の時価及び発行体（取引先企業）の財務状況等は定期的に把握されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、金利の変動状況をモニタリングし担当部門長に報告しております。

また、営業債務や借入金は、資金繰計画を作成する等の方法により流動性リスクを管理しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引であります。デリバティブ取引の執行・管理については取引権限や限度額等を定めた社内規程に従って行っており、また信用リスクを軽減するために、取引先は高格付を有する金融機関に限定しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	5,242	5,242	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,357	4,357	—
(3) 投資有価証券	513	513	—
資産計	10,113	10,113	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,865	1,865	—
(2) 短期借入金	362	362	—
(3) 未払法人税等	180	180	—
負債計	2,408	2,408	—
デリバティブ取引(*)	1	1	—

(*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,689	6,689	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,009	4,009	—
(3) 投資有価証券	622	622	—
資産計	11,321	11,321	—
(1) 支払手形及び買掛金	1,746	1,746	—
(2) 短期借入金	320	320	—
(3) 未払法人税等	121	121	—
負債計	2,188	2,188	—
デリバティブ取引(*)	0	0	—

(*)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	27	26

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,242	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,357	—	—	—
合計	9,600	—	—	—

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,689	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,009	—	—	—
合計	10,698	—	—	—

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	362	—	—	—	—	—
合計	362	—	—	—	—	—

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	320	—	—	—	—	—
合計	320	—	—	—	—	—

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	410	259	150
	(2) 債券			
	① 国債・地方 債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	410	259	150
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	102	120	△18
	(2) 債券			
	① 国債・地方 債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	102	120	△18
合計		513	380	132

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 16百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価（百万円）	差額（百万円）
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの	(1) 株式	522	291	230
	(2) 債券			
	① 国債・地方 債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	522	291	230
連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの	(1) 株式	100	104	△4
	(2) 債券			
	① 国債・地方 債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	100	104	△4
合計		622	396	226

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 12百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1 年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	14	—	△0
	ユーロ	売掛金	4	—	△0
	買建				
	米ドル	買掛金	22	—	0
	カナダドル	買掛金	7	—	0
	ボンド	買掛金	0	—	0
	合計		49	—	1
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	190	—	—
	ユーロ	売掛金	27	—	—
	買建				
	ユーロ	買掛金	3	—	—
	ボンド	買掛金	0	—	—
	合計		221	—	—

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から揭示された価格等に基づき算定しております。

2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金、買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金、買掛金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1 年超（百万円）	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	19	—	0
	買建				
	米ドル	買掛金	1	—	0
合計			21	—	0
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	売掛金	89	—	—
	ユーロ	売掛金	14	—	—
	買建				
	米ドル	買掛金	3	—	—
	ユーロ	買掛金	2	—	—
合計			109	—	—

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から揭示された価格等に基づき算定しております。

2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金、買掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金、買掛金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付企業年金制度（キャッシュバランスプラン）及び退職一時金制度を設けております。また国内連結子会社は退職一時金制度を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	金額（百万円）	金額（百万円）
① 退職給付債務	△3,252	△3,426
② 年金資産	1,487	1,632
③ 未積立退職給付債務（①+②）	△1,764	△1,794
④ 未認識数理計算上の差異	257	330
⑤ 未認識過去勤務債務	△298	△256
⑥ 連結貸借対照表計上純額（③+④+⑤）	△1,805	△1,719
⑦ 前払年金費用	—	—
⑧ 退職給付引当金（⑥-⑦）	△1,805	△1,719

3. 退職給付費用に関する事項

項目	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
	金額（百万円）	金額（百万円）
① 勤務費用	141	142
② 利息費用	76	73
③ 期待運用収益	△23	△16
④ 数理計算上の差異の費用処理額	87	33
⑤ 過去勤務債務の費用処理額	△42	△42
⑥ 退職給付費用（①+②+③+④+⑤）	238	190

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
① 退職給付見込額の期間配分法	期間定額法	期間定額法
② 割引率（％）	2.4	1.5
③ 期待運用収益率（％）	1.5	1.1
④ 過去勤務債務の額の処理年数（年）	10	10
⑤ 数理計算上の差異の処理年数（年）	10	10

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	126百万円	127百万円
未払社会保険料	17	17
未払事業税	16	8
棚卸資産未実現利益	16	15
退職給付引当金	659	622
役員退職慰労引当金	59	50
施設会員権評価損	27	28
その他	34	25
繰延税金資産小計	956	895
評価性引当額	△27	△28
繰延税金資産合計	930	866
繰延税金負債		
特別償却準備金	△6	△4
その他有価証券評価差額金	△47	△80
在外子会社の留保利益	△154	△106
その他	△28	△30
繰延税金負債合計	△237	△223
繰延税金資産の純額	693	643

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	200百万円	186百万円
固定資産－繰延税金資産	600	512
固定負債－その他	△107	△55

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.7%	38.0%
在外子会社留保利益	2.0	△4.7
税額控除	△6.3	△3.6
海外税率差異	△4.6	△2.4
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.9	2.9
住民税均等割	0.8	1.0
評価性引当額の増減	△0.1	0.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	6.9	—
その他	0.6	3.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.9	34.7

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末（平成24年3月31日）

本社建物の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

なお、当連結会計年度末時点において敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額は、6百万円であります。

当連結会計年度末（平成25年3月31日）

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内においては製品別の事業部門を置き、海外においては、中国・台湾等の各地域に独立した経営単位である現地法人を設立し、各事業部門及び各現地法人は、取り扱う製品等についての包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

このことから、当社グループは、国内の製品別のセグメントである「調合香料事業」、「合成香料・ケミカル事業」と海外の現地法人からなる「海外事業」の3つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益（のれん償却前）ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	調合香料 事業	合成香料・ ケミカル 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,873	5,186	1,518	14,578	1,289	15,867	—	15,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	721	582	65	1,369	103	1,473	△1,473	—
計	8,595	5,768	1,583	15,948	1,392	17,340	△1,473	15,867
セグメント利益	806	292	221	1,320	90	1,410	△20	1,390
セグメント資産	6,600	5,320	1,208	13,129	828	13,957	5,198	19,156
その他の項目								
減価償却費	183	306	10	501	0	501	0	502

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社の事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△20百万円には、棚卸資産の調整額△4百万円、のれんの償却額△16百万円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等0百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

(2) セグメント資産の調整額5,198百万円には、セグメント間取引消去△791百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産5,990百万円が含まれております。全社資産の主なものは現預金等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	調合香料 事業	合成香料・ ケミカル 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	7,714	4,201	1,386	13,303	1,231	14,534	—	14,534
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	621	542	61	1,224	91	1,316	△1,316	—
計	8,336	4,743	1,447	14,528	1,323	15,851	△1,316	14,534
セグメント利益	658	192	171	1,022	57	1,080	△3	1,076
セグメント資産	6,491	4,706	2,177	13,375	784	14,160	5,536	19,696
その他の項目								
減価償却費	185	263	15	464	0	465	0	465

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社の事業等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△3百万円には、棚卸資産の調整額31百万円、のれんの償却額△16百万円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△18百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

(2) セグメント資産の調整額5,536百万円には、セグメント間取引消去△1,301百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産6,837百万円が含まれております。全社資産の主なものは現預金等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

	調合香料	合成香料・ ケミカル	合計
外部顧客への売上高	9,866	6,001	15,867

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	アジア	欧州	その他	合計
12,759	2,721	356	30	15,867

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	調合香料	合成香料・ケミカル	合計
外部顧客への売上高	9,522	5,011	14,534

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	欧州	その他	合計
11,755	2,379	373	25	14,534

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	調合香料事業	合成香料・ケミカル事業	海外事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	—	—	16	—	—	16
当期末残高	—	—	28	—	—	28

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：百万円)

	調合香料事業	合成香料・ケミカル事業	海外事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	—	—	16	—	—	16
当期末残高	—	—	12	—	—	12

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社	東レ(株)	東京都中央区	147,873	繊維、プラスチック・ケミカル、情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料、その他の製造及び販売	(被所有)直接50.03	製品・商品の販売及び原材料・商品の仕入 役員の兼任	資金の預入	12,208	—	—
							資金の払出	12,208	—	—
							受取利息	7	未収入金	0
その他の関係会社	三井物産(株)	東京都千代田区	341,481	総合商社	(被所有)直接15.00	製品・商品の販売及び原材料・商品の仕入	製品・商品の販売	1,441	売掛金	203

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社	東レ(株)	東京都中央区	147,873	繊維、プラスチック・ケミカル、情報通信材料・機器、炭素繊維複合材料、その他の製造及び販売	(被所有)直接50.03	製品・商品の販売及び原材料・商品の仕入 役員の兼任	資金の預入	12,007	—	—
							資金の払出	12,007	—	—
							受取利息	7	未収入金	0
その他の関係会社	三井物産(株)	東京都千代田区	341,481	総合商社	(被所有)直接15.00	製品・商品の販売及び原材料・商品の仕入	製品・商品の販売	1,173	売掛金	181

(注) 1. 取引金額には、消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等

- (1) 資金の預入及び払出は、東レグループ内におけるCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）利用によるもので、当社と東レ(株)との間で基本契約を締結しております。また、利息の受取に関しては同取引に伴うもので、利息の利率は市場金利を勘案して決定しております。
- (2) 製品・商品の販売については、市場価格を勘案し毎回価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

東レ株式会社

（東京証券取引所（市場第一部）、大阪証券取引所（市場第一部）、名古屋証券取引所（市場第一部）
福岡証券取引所、札幌証券取引所、ロンドン証券取引所、ルクセンブルグ証券取引所に上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,336.40円	1株当たり純資産額	1,398.47円
1株当たり当期純利益金額	69.40円	1株当たり当期純利益金額	61.47円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
当期純利益(百万円)	693	614
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	693	614
期中平均株式数(千株)	9,996	9,996

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	362	320	0.3	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	—	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	362	320	—	—

(注) 上記の「平均利率」は期末のものを使用して算定しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	3,970	7,419	10,963	14,534
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	272	511	794	1,021
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	141	292	465	614
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	14.19	29.21	46.59	61.47

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	14.19	15.02	17.38	14.88

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,458	4,835
受取手形	※3 266	※3 242
売掛金	※1 3,577	※1 3,356
商品及び製品	1,081	928
仕掛品	1,160	1,025
原材料及び貯蔵品	1,042	986
前払費用	82	61
繰延税金資産	165	151
その他	30	32
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	11,863	11,619
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,752	3,758
減価償却累計額	△2,589	△2,654
建物（純額）	1,162	1,103
構築物	1,017	1,030
減価償却累計額	△818	△840
構築物（純額）	198	190
機械及び装置	8,910	8,786
減価償却累計額	△7,965	△8,034
機械及び装置（純額）	945	752
車両運搬具	215	214
減価償却累計額	△202	△178
車両運搬具（純額）	12	35
工具、器具及び備品	1,435	1,464
減価償却累計額	△1,209	△1,245
工具、器具及び備品（純額）	225	218
土地	1,563	1,563
建設仮勘定	14	96
有形固定資産合計	4,124	3,960
無形固定資産		
ソフトウェア	38	26
その他	1	43
無形固定資産合計	39	69
投資その他の資産		
投資有価証券	529	635
関係会社株式	357	906
出資金	0	0
長期前払費用	6	—
繰延税金資産	605	528
差入保証金	172	115
その他	39	41
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	1,706	2,222
固定資産合計	5,870	6,252
資産合計	17,734	17,871

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※3 272	※3 208
買掛金	1,521	1,451
短期借入金	300	320
未払金	417	414
未払費用	127	123
未払法人税等	146	96
未払消費税等	31	53
前受金	7	13
預り金	39	41
賞与引当金	291	294
役員賞与引当金	12	6
設備関係支払手形	107	49
その他	0	0
流動負債合計	3,274	3,072
固定負債		
退職給付引当金	1,638	1,553
役員退職慰労引当金	148	125
その他	6	1
固定負債合計	1,793	1,680
負債合計	5,067	4,753
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,490	1,490
資本剰余金		
資本準備金	1,456	1,456
資本剰余金合計	1,456	1,456
利益剰余金		
利益準備金	118	118
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	2	1
特別償却準備金	11	8
別途積立金	8,300	8,800
繰越利益剰余金	1,203	1,098
利益剰余金合計	9,636	10,027
自己株式	△2	△2
株主資本合計	12,580	12,972
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	85	145
繰延ヘッジ損益	0	0
評価・換算差額等合計	86	145
純資産合計	12,666	13,118
負債純資産合計	17,734	17,871

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高		
製品売上高	11,503	10,392
商品売上高	2,860	2,687
売上高合計	※1 14,364	※1 13,080
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	1,134	1,050
当期製品製造原価	7,112	6,336
合計	8,246	7,387
製品他勘定振替高	※2 10	※2 3
製品期末たな卸高	1,050	918
製品売上原価	7,185	6,465
商品売上原価		
商品期首たな卸高	21	31
当期商品仕入高	2,698	2,470
合計	2,719	2,501
商品他勘定振替高	※3 15	※3 21
商品期末たな卸高	31	10
商品売上原価	2,672	2,470
売上原価合計	9,858	8,936
売上総利益	4,505	4,144
販売費及び一般管理費		
販売手数料	43	41
荷造運搬費	211	202
役員報酬	144	124
給料及び手当	1,326	1,331
賞与引当金繰入額	196	196
役員賞与引当金繰入額	12	6
退職給付費用	169	133
役員退職慰労引当金繰入額	29	24
福利厚生費	311	309
旅費及び交通費	115	107
減価償却費	82	97
賃借料	241	216
試験研究費	48	40
その他	461	442
販売費及び一般管理費合計	※4 3,394	※4 3,274
営業利益	1,111	869

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業外収益		
受取利息	7	7
受取配当金	※1 67	※1 51
受取補償金	—	8
その他	18	10
営業外収益合計	93	77
営業外費用		
支払利息	2	1
休止固定資産減価償却費	58	44
その他	4	0
営業外費用合計	65	47
経常利益	1,139	899
特別利益		
固定資産売却益	—	※5 5
特別利益合計	—	5
特別損失		
固定資産除却損	※6 17	※6 41
事務所移転費用	—	6
投資有価証券評価損	4	3
災害による損失	22	—
貸倒引当金繰入額	2	—
特別損失合計	46	50
税引前当期純利益	1,092	853
法人税、住民税及び事業税	341	263
法人税等調整額	109	58
法人税等合計	451	322
当期純利益	640	531

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		4,684	64.8	3,910	63.0
II 労務費	※1	935	12.9	906	14.6
III 経費	※2	1,609	22.3	1,386	22.4
当期総製造費用		7,229	100.0	6,202	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,045		1,160	
計		8,275		7,363	
他勘定振替高	※3	2		1	
期末仕掛品たな卸高		1,160		1,025	
当期製品製造原価		7,112		6,336	

原価計算の方法

組別総合原価計算を採用しております。なお、原価差額は期末において売上原価とたな卸資産とに調整しております。

(注) ※1. 労務費には次のものが含まれております。

項目	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
賞与引当金繰入額 (百万円)	95	97

※2. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
外注加工費 (百万円)	732	585
減価償却費 (百万円)	405	350
修繕費 (百万円)	94	98

※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
試験研究費 (百万円)	2	1

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,490	1,490
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,490	1,490
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,456	1,456
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,456	1,456
資本剰余金合計		
当期首残高	1,456	1,456
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,456	1,456
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	118	118
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	118	118
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金		
当期首残高	—	2
当期変動額		
圧縮記帳積立金の積立	2	—
圧縮記帳積立金の取崩	—	△0
当期変動額合計	2	△0
当期末残高	2	1
特別償却準備金		
当期首残高	12	11
当期変動額		
特別償却準備金の積立	4	3
特別償却準備金の取崩	△5	△5
当期変動額合計	△1	△2
当期末残高	11	8
別途積立金		
当期首残高	7,600	8,300
当期変動額		
別途積立金の積立	700	500
当期変動額合計	700	500
当期末残高	8,300	8,800

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,403	1,203
当期変動額		
圧縮記帳積立金の積立	△2	—
圧縮記帳積立金の取崩	—	0
特別償却準備金の積立	△4	△3
特別償却準備金の取崩	5	5
別途積立金の積立	△700	△500
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	640	531
当期変動額合計	△199	△104
当期末残高	1,203	1,098
利益剰余金合計		
当期首残高	9,135	9,636
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	640	531
当期変動額合計	500	391
当期末残高	9,636	10,027
自己株式		
当期首残高	△2	△2
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△2	△2
株主資本合計		
当期首残高	12,079	12,580
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	640	531
当期変動額合計	500	391
当期末残高	12,580	12,972
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	70	85
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	60
当期変動額合計	15	60
当期末残高	85	145
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	0	0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	△0
当期変動額合計	0	△0
当期末残高	0	0

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
評価・換算差額等合計		
当期首残高	70	86
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	59
当期変動額合計	15	59
当期末残高	86	145
純資産合計		
当期首残高	12,150	12,666
当期変動額		
剰余金の配当	△139	△139
当期純利益	640	531
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	59
当期変動額合計	516	451
当期末残高	12,666	13,118

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・仕掛品・貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 商品・原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8－50年

機械装置 4－8年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については社内における利用可能期間（5年）による定額法

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段は先物為替予約であり、ヘッジ対象は主として外貨建予定取引であります。

(3) ヘッジ方針

主として、「社内規程」に従い、外貨建の売上及び仕入契約の為替変動リスクをヘッジしております。原則として、外貨建の売掛金・買掛金及び成約高の範囲で行うこととしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が一致しているため有効性の評価を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産		
売掛金	614百万円	544百万円

2 保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
曾田香料(昆山)有限公司	74百万円	—

※3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当期の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
受取手形	40百万円	37百万円
支払手形	43	35

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
関係会社への売上高	2,790百万円	2,386百万円
関係会社からの受取配当金	53	36

※2 製品他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
雑損失	7百万円	2百万円
試験研究費	2	0
計	10	3

※3 商品他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
試験研究費	15百万円	12百万円
材料費	—	8
計	15	21

※4 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	929百万円	952百万円

※5 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
車両運搬具	—百万円	5百万円

※6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	0百万円	5百万円
機械及び装置	2	31
固定資産処分費用	10	3
その他	3	0
計	17	41

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式	3	—	—	3
合計	3	—	—	3

当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末株式数 (千株)
普通株式	3	—	—	3
合計	3	—	—	3

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア) 有形固定資産

該当事項はありません。

(イ) 無形固定資産

該当事項はありません。

② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	113	108	5
合計	113	108	5

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	43	43	—
合計	43	43	—

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	5	—
1年超	—	—
合計	5	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	17	5
減価償却費相当額	17	5

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	35	61
1年超	61	—
合計	97	61

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式896百万円、関連会社株式9百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式347百万円、関連会社株式9百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	110百万円	111百万円
未払社会保険料	15	15
未払事業税	14	8
退職給付引当金	599	563
役員退職慰労引当金	55	46
施設会員権評価損	25	26
その他	31	20
繰延税金資産小計	852	793
評価性引当額	△25	△26
繰延税金資産合計	826	766
繰延税金負債		
特別償却準備金	△6	△4
圧縮記帳積立金	△1	△0
その他有価証券評価差額金	△47	△80
繰延ヘッジ損益	△0	△0
繰延税金負債合計	△55	△86
繰延税金資産の純額	771	679

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.7%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
税額控除	△7.8	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.5	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.2	
住民税均等割	0.9	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	7.7	
その他	0.5	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.3	

(資産除去債務関係)

前事業年度末 (平成24年 3月31日)

本社建物の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

なお、当事業年度末時点において敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額は、6百万円であります。

当事業年度末 (平成25年 3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
1株当たり純資産額 1,267.13円	1株当たり純資産額 1,312.29円
1株当たり当期純利益金額 64.12円	1株当たり当期純利益金額 53.18円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
当期純利益 (百万円)	640	531
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	640	531
期中平均株式数 (千株)	9,996	9,996

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】
 【有価証券明細表】
 【株式】

銘柄		株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	
投資有価証券	その他有価証券	(株)ツムラ	39,225	136
		(株)資生堂	64,444	85
		森永製菓(株)	265,787	54
		仙波糖化工業(株)	123,000	40
		日本製粉(株)	90,488	39
		雪印メグミルク(株)	24,160	36
		ライオン(株)	69,722	36
		コタ(株)	39,930	35
		キリンホールディングス(株)	20,000	30
		明治ホールディングス(株)	4,924	21
	その他 23銘柄	406,503	119	
計		1,148,187	635	

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	3,752	47	41	3,758	2,654	100	1,103
構築物	1,017	13	—	1,030	840	22	190
機械及び装置	8,910	89	213	8,786	8,034	251	752
車両運搬具	215	29	31	214	178	7	35
工具、器具及び備品	1,435	88	60	1,464	1,245	95	218
土地	1,563	—	—	1,563	—	—	1,563
建設仮勘定	14	89	7	96	—	—	96
有形固定資産計	16,910	358	354	16,914	12,953	477	3,960
無形固定資産							
ソフトウェア	362	3	—	365	339	15	26
その他	1	42	0	43	—	—	43
無形固定資産計	363	45	0	409	339	15	69
長期前払費用	6	—	6	—	—	—	—

(注) 機械及び装置の当期減少額の主なものは、野田工場のケミカル生産設備の除却147百万であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	5	1	—	1	5
賞与引当金	291	294	291	—	294
役員賞与引当金	12	6	12	—	6
役員退職慰労引当金	148	24	47	—	125

(注) 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、前期計上額の洗替えによる戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

イ 現金及び預金

内訳	金額（百万円）
現金	2
預金の種類	
当座預金	4,829
普通預金	3
外貨預金	0
別段預金	0
小計	4,833
合計	4,835

ロ 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
合同酒精㈱	34
岩谷産業㈱	17
㈱ファミネット	14
加藤美蜂園本舗	13
クラシエホームプロダクツ㈱	11
その他	151
合計	242

期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成25年3月	37
4月	68
5月	54
6月	46
7月	31
8月	4
合計	242

ハ 売掛金
相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
D I C(株)	484
(株)明治	392
(株)ソダアクト	258
雪印メグミルク(株)	216
三井物産(株)	181
その他	1,823
合計	3,356

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
3,577	13,648	13,868	3,356	80.5%	93

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ニ 商品及び製品

品目	金額（百万円）
商品	
調合香料	9
合成香料・ケミカル	0
小計	10
製品	
調合香料	506
合成香料・ケミカル	412
小計	918
合計	928

ホ 仕掛品

品目	金額（百万円）
調合香料	261
合成香料・ケミカル	763
合計	1,025

へ 原材料及び貯蔵品

区分	金額（百万円）
原材料	
天然香料	291
合成香料	301
調合香料	28
食品原料	172
合成素材	133
その他	20
小計	947
貯蔵品	
研究資材	30
製造資材	6
その他	2
小計	39
合計	986

ト 関係会社株式

銘柄	金額（百万円）
曾田香料(昆山)有限公司	559
台湾曾田香料股份有限公司	304
(株)ソダアクト	22
岡山化学工業(株)	10
その他	9
合計	906

② 負債の部

イ 支払手形

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
(株)ダイショウ	19
(株)井上香料製造所	16
第一物産(株)	14
都興産(株)	13
ポーエン化成(株)	12
その他	133
合計	208

期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成25年 3月	35
4月	71
5月	46
6月	36
7月	18
8月	0
合計	208

ロ 設備関係支払手形

相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
(株)ソムテック	9
橘工業(株)	6
(株)日東紡テクノ	5
三洋化学(株)	5
宝化成機器(株)	3
その他	19
合計	49

期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成25年 4月	7
5月	14
6月	14
7月	12
合計	49

ハ 買掛金

相手先	金額（百万円）
DKSHジャパン(株)	108
仙波糖化工業(株)	71
森永商事(株)	68
東レ(株)	52
花王(株)	50
その他	1,099
合計	1,451

ニ 退職給付引当金

区分	金額（百万円）
退職給付債務	3,261
年金資産	△1,632
未認識数理計算上の差異	△330
未認識過去勤務債務	256
退職給付引当金	1,553

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載することとし、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.soda.co.jp
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書
事業年度（第40期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月28日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類
平成24年6月28日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書
（第41期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月8日関東財務局長に提出
（第41期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月6日関東財務局長に提出
（第41期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月7日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
平成24年7月3日関東財務局長に提出
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月25日

曾田香料株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木村	聡	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	打越	隆	印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている曾田香料株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、曾田香料株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、曾田香料株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、曾田香料株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年6月25日

曾田香料株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木村	聡	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	打越	隆	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている曾田香料株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、曾田香料株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【会社名】	曾田香料株式会社
【英訳名】	Soda Aromatic Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澤田 定秀
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町四丁目15番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長澤田定秀は、当社の第41期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月26日
【会社名】	曾田香料株式会社
【英訳名】	Soda Aromatic Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 澤田 定秀
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町四丁目15番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長澤田定秀は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全に防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成25年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。なお、連結子会社3社及び持分法適用子会社1社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていない。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、前連結会計年度の売上高(連結会社間取引消去後)の金額が連結売上高の概ね2/3に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」とした。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及びたな卸資産に至る業務プロセスを評価の対象とした。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加している。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。